

『相手の立場に立つ』

ゆらくの里 支援課課長 課長 中山 寛基

近頃、他者視点の欠落している人が増えたのではと感じる事が多々あります。歩きスマホや煽り運転、電車の中で化粧や食事をする人、住宅地で夜遅くまでバーベキューに興じる人など…。

「最近の若者は…」なんて言ったりしますが、このような事象は、若者だけに言える事ではなく、年配の方でも見かけます。

それはさておき、他者視点の欠落は、自責ではなく他責の考え方が強くなつていき、失敗した時に原因を責任転嫁してしまうようになります。そのようなことは、日常においても良くない事ですし、ましてや障害を持つ方の支援を行う私達にはあってはならないことです。福祉の仕事に携わるには、他者の視点に立ったものの見方・考え方をすることが、必要不可欠ではないでしょうか。

「相手の気持ちを考えよう」という表現は、様々な場面でよく使います。支援を行うに当たり、「利用者さんはどう思っているのか、どう感じているのか?」「何故、このような行動をされるのか?」「この行動の背景や原因は何なのだろうか?」などいろんな角度から考えることが重要です。

障害特性により、器物破損、自傷行為、他者への暴力的行為など様々な行動障害のある方の支援において、行為を制止するだけに終わるのではなく、原因を探り、取り除くことを行わなければなりません。

現場職員は、行動障害の方への支援に関する研修を受けることや専門家のアドバイスをもらい、試行錯誤しながら支援に取り組んでいます。行動障害がすぐに無くなる訳ではありませんが、少しずつですが改善に向かっております。

一方で、職員間のコミュニケーションも大切です。

日々の支援業務の中で、職員間で連携を取らなければ、利用者さんの支援に支障をきたすことになり兼ねません。

また、職員個々の価値観の違いがあることを認め合うことが大切です。

我々の法人名の以和貴会の元になった「和を以て貴しとなす」という言葉は、「同じ考え方で和気あいあいと仲良くする」というような意味ではありません。相手の立場に立つと言うことは、自分にも人にも正直に不満があればお互いにそれをぶつけ合い、理解し合うということです。自分を失って相手に合わせるのではなく、しっかり自分を保った上で相手を尊重し、調和すること」が本来の言葉の意味と言えます。

ゆらくでは、四つのグループに分かれ、法人研究発表に向け取り組んでいます。日々の職務の合間を縫い、グループ外や他事業の職員へのアンケートの協力依頼や意見・アドバイスを聞いたりし、職務の垣根を越えて協力できるように進めております。

まだまだ改善すべき点がたくさんありますが、半期の反省を踏まえた上で、ご利用者の為に何ができるのかを考え、お互いを支え合いながら職員一丸となり、ご利用者に寄り添っていきたくと考えておりますので、ご理解とご協力の程、宜しくお願い致します。



ゆらくの里 食事に関する取組紹介

～あったかいもんは温かく、冷たいもんは冷たく～

ゆらくの里 管理栄養士 米田なおみ



天高く馬肥ゆる秋

秋刀魚に、栗に、きのこ・秋茄子・梨・新米と美味しい物であふれる季節を迎え、ゆらくの里厨房は今日も、ご利用者の食欲を満たすため活気にあふれています。

365 日休む間もなく、日夜稼働している厨房ですが 7/16～23 の 8 日間、開所以来初めて長期に渡り調理作業を停止させて頂きました。その折には、ご利用者をはじめ職員の方々に多大なご迷惑とご不便をお掛けし、申し訳ございませんでした。そして、ご理解と臨機応変なご協力頂きました事、この場をお借りし感謝と御礼申し上げます。

8 日間におよぶ厨房作業停止は、温冷配膳車導入に伴う工事の為でした。いつも「何食べたい？」と聞くと「あったかいもん食べたいなあ」と答えてくださるご利用者がおられます。これは一人の方だけでなく皆の願いだと受け止めています。

この願いに応えるべく、長年使用していた温蔵庫の不具合と配膳棚の老朽化、人員不足、寄付金申請、施設や理事会の方々のご理解など、全てのタイミングが重なり、温冷配膳車導入へと繋がりました。

「あったかいもんは温かく、冷たいもんは冷たく」



温冷配膳車の使用風景

お料理の温度は、美味しいと感じる重要な要素の一つであり、料理を提供する側の基本的配慮の一つであり、愛だと考えます。夏の暑い日に食べる冷たいそうめん、寒い日に食べる温かいおでん、ご利用者のご家庭で召し上がっておられたお料理は、当たり前のように適温でお料理が並べられ、ご家族の愛が添えられていたことと思います。

しかしながら、給食ではこの当たり前の適温料理の提供が、とても難しいのです。例えば、おでん一皿にじゃが芋・卵・こんにゃく・竹輪・厚揚げと 5 品の盛合せを 80 人分盛り付けるのに、1 品 15 分×5 品で最短でも 1 時間 15 分以上の時間が必要です。その間、副菜やお茶の準備をしていると冬の寒い厨房では、あっという間に冷えてしまいます。それをまた、温蔵庫に入れる作業に時間がかかり、やっと温蔵庫内で温かくなり始めた頃、また出して一人一人のお盆に乗せる作業が始まります。

お盆に乗せるのも、ご飯を盛る作業と同時進行では、また温度が下がってしまいます。それでも、すぐに召し上がって頂ければまだ、ほんのり温かいかもしれませんが、最後の方で食べに来られた方は、冷たく冷えたおでんを召し上がって頂くのは、止むを得ませんでした。

このように、温蔵庫を駆使しながら提供させて頂いていたのですが、機材に不具合が出始め、老朽化により、いつ何時故障するか分からない状況でした。

そんな中、以前よりお願いしていた寄付金申請が受理され、それを追い風に一気に温冷配膳車の導入が具体化して行きました。(※本誌 12p に掲載)

まず、何処に置くか、今ある配膳棚はどうするのか、保健所の指導に適應できるのか、工事の期間の給食は？お茶は？コーヒーは？食器は洗えるの？それを周知・協力してもらうには、どうすれば？などなど課題は山積みでしたが、『あったかいもん食べたい』思いに応えたい気持ちは、厨房も支援スタッフも皆共通でしたから、知恵を出し合い、協力しながら工事期間中もその後も、どうにか乗り切ることが出来ました。



温冷配膳車導入後の厨房内作業も、使い始めた頃より、ずいぶん効率化され機能を活かせてきたと感じています。

そして嬉しい報告も受けています。今までご飯を食べるのを嫌がられていたご利用者が、温かいご飯になってからは、嫌がることなくスムーズに召し上がって下さっていると聞きました。今までのご飯は、やっぱり冷めていて美味しくなかったでしょう……。ほかほかの温かいご飯を召し上がる姿に、改めて適温提供の大切さを教えて頂きました。

食堂内から見た温冷配膳車

最後になりましたが今回、マンパワーでは限界があった給食提供にご理解頂き、思い切って高額機材の導入に踏み切って下さった事、感謝いたします。また、その皆さんの想いや願いを、毎日実現できることに喜びを感じています。

これからも、『あったかいもんは温かく、冷たいもんは冷たく』を胸に、厨房一同更なる努力を続けて行く所存です。今後とも、宜しくお願い致します。



ゆらくの里厨房の様子

第5回 「IWAKI 夏フェス」 開催

8月29日

第5回 IWAKI 夏フェス 実行委員 森田誠治



毎年の恒例行事となりました『IWAKI 夏フェス』も、今年で5回目を迎えました。当日は、汗ばむほどの晴天にも恵まれ、会場となったすみれの里駐車場にて、多くの方々にお祭りを楽しんで頂きました。

今回は、法人設立 30 周年ということもあり、「地域共生」をテーマに、逢坂自治会の方々や香芝市商工会の皆さんを始め、多くの方々の協力の元、これまで支えて下さった地域の皆さんへの“感謝”の意を込めて準備にあたってきました。当日は、会場入り口に大きなエアアーチ、ミニチュアホースとの触れ合いコーナー、保健センター前にメインステージを設置し、例年以上に力を入れた会場設営となりました。



香芝市長 吉田弘明様

来賓代表として香芝市長 吉田弘明様よりご挨拶を頂戴し、チアダンスチーム「チア☆ねっと」の皆さんによる素敵なダンスと共に『第5回 IWAKI 夏フェス』はスタートしました。

催し物は、ダンスチーム「Bran. co. lab (ブランコラボ)」の皆さんによるヒップホップダンス、香芝市を拠点に活躍されているよさこいチーム「天昇なら舞 いちや」の皆さんによるよさこい演舞、“音楽をもっと楽しく”をコンセプトに全国で活動されている「音楽工房 京の音屋」の皆さんによる素敵なコンサートなど、皆様にお力添え頂き、どれも素敵なものばかりとなりました。

(上)ダンスチーム「チア☆ねっと」の皆さん

(下)「音楽工房 京の音屋」の皆さん

ビンゴゲーム大会の様子



段々と夕暮れが近づく中、昨年に引き続きビンゴゲーム大会が始まりました。司会の下村理事長の前には、受付で購入したビンゴカードを握りしめ、欲しい商品が当たるように目を輝かせて多くの方々にお集まりいただきました。任天堂スイッチや、USJ ペアチケット、カッシー君ぬいぐるみなど数々の景品が目白押しで、商品が当たると、笑顔いっぱい景品を受け取っておられました。ビンゴ終了後には、ラストワン賞としてUSJ ペアチケットをかけたじゃんけん大会。惜しくもビンゴで景品が当たらなかった方にご参加いただき、白熱した戦いとなりました。





模擬店の様子

日も沈み、夏フェスのフィナーレとなる「香芝天衝太鼓」の皆さんによる和太鼓演奏が始まりました。素敵な演奏とともに、カラーテープと光るボールが空に打ち上げられ、子どもたちは驚いた表情を見せながらも、しっかりとボールやテープを手に取り、夏フェスは終了しました。

「香芝天衝太鼓」の皆さん



このような素晴らしいお祭りの開催にご協力くださいました香芝市行政関係の皆様、地域住民の皆様、他法人の皆様、そしてご協賛くださいました企業並びに個人、ボランティアの皆様など、多くの方のお力添えがあっけなし得たお祭りだと実感しております。

来年も「第6回 IWAKI 夏フェス」を開催できるように頑張りますので、よろしくお願い申し上げます。



ダンスチーム「Bran.co. lab」の皆さん



「天昇なら舞 いちや」の皆さん



ミニチュアホースとの触れ合いコーナー

ご協力いただきました皆様



(株)ステップワン、(株)タクサン、青木祥平、(株)イカリトンボ、山本あい、黒川正通、池上治人、吉原成信、井上猛、久米レイ子、武内希衣、(株)イドタフレスコ、田中賢、岡本幸宗、ジュルネフーズ(株)、中尾由和、古川義生、戌亥幸秀、高司示現、村本建設(株)奈良本店、船木燃料店、源開発(株)、津田貞男、三谷育代、谷川千尋、大和信用金庫香芝中央支店、吉川自動車、島仲美沙、岡村プロテックス、山本珈琲(株)奈良営業所、(株)田原建設、ゆらくの里家族会、愛の会(今人・我楽・すみれの里家族会)、谷野会計事務所(順不同 敬称略)

ほか匿名希望の方多数よりご協賛をいただきました。ありがとうございました。

ゆらくの里 夏期施設内研修

ゆらくの里 支援員 大内 彩葉



平成 30 年 9 月 5 日（水）にゆらくの里で夏期施設内研修を開催しました。今回の研修テーマは「虐待のない風土を作る」とし、以前にも虐待防止に関わる研修をお願いさせて頂いたことがある会津大学短期大学部の市川和彦先生をお招きしました。市川先生は大学で福祉を専門に教えておられ、様々な福祉施設で研修を行っておられます。

本来であれば、一日を通して市川先生に講演をお願いしていたのですが、台風の影響により、午後からの研修となりました。

その為、午前中は急遽、職員同士でベッドでの四肢拘束と車椅子で使用する拘束帯の使用方法の確認を行いました。拘束帯を自分たちが実際に使用することで、怪我や病気で拘束しなければならない時のご利用者の気持ちや身体の負担などを少しでも感じ取り、ご利用者の不快感を減らすために、参加者全員でしっかりと確認をしました。拘束は、支援者として最大限の力を出し切った上で、ご利用者を守る為の最終手段として実施する事を忘れてはいけないと感じました。

市川先生が到着され、午後からの研修が始まりました。まずは、ご利用者とのコミュニケーション方法についての説明からです。

- ①プット・・・お互いにぬくもりを感じ合える。(手を背中やご利用者が嫌がらない部分に触れる)
- ②プッシュ・・・スタッフがご利用者の身体に手で圧をかける。(心地よい重み)
- ③プレス・・・スタッフがご利用者の手を撫でる。
- ④ストローク・・・プットをしながらご利用者の身体を撫でる。
(撫でるスピード・手の圧の具合もそれぞれスタッフのオリジナル)
- ⑤タッピング・・・心地よい早さ・強さで肩を叩く。

スキンシップという 1 つのコミュニケーションの中にもこの様な種類があると知り驚きました。身体に触れるコミュニケーションには、マッサージ感覚で落ち着くといった事だけではなく「オキシトシン」(「幸せホルモン」「愛情ホルモン」と呼ばれるホルモン)が分泌されるといった科学的根拠もあります。また、一見マッサージを受けているご利用者だけがオキシトシンの分泌が増えるように思いますが、マッサージを行っている側の職員も増えることが分かっています。ご利用者が気持ち良さそうにしていたり、眠ってしまったりと自分の支援で穏やかに過ごされている姿を見てスタッフも幸せな気分になっている事もとても大事なポイントだと思います。身体に触れられる事が苦手なご利用者が安心する箇所を日々探っていく事によってご利用者とスタッフとの関係性も深まるのではないかと思います。

次に、自閉症の方がよくされているのを見かける常同行動について。普段私たちは、何気なく常同行動を見ています。ですが、常同行動でご利用者とコミュニケーションをとる事が出来ます。例えばご利用者が、身体を横に揺らす常同行動をしているとします。初めは少し距離をとりながらスタッフも同じ様に身体を横に揺らします。そしてご利用者の反応を見ながら、次は手を繋ぎ横に揺れてみるなどの 2 人だけのオリジナルコミュニケーションに変化します。この関わりをする事でテンションを上げ興奮に繋がるのでは・・・と疑問に思いましたが「毎日する事に意味があり、たまにするから興奮される」と教えて頂きました。普段見逃していた常同行動は、言語ではコミュニケーションが難しいご利用者とのコミュニケーションを楽しく出来る素敵な行動だったと理解できました。時間や日課に追われる日々の中でご利用者の何気ない行動に着目し、ご利用者とスタッフでプラスのコミュニケーションに変えていく。お互いが楽しんで、笑顔でいれるたった 5 分という短い時間でも毎日続ける事によって大きな信頼関係になっているのではないかと感じました。

最後に「ご利用者」「スタッフ」の役割に分かれ、支援のある一場面のロールプレイングを行い、その支援方法に関して、どう感じたかをグループで話し合いました。どのグループにおいても様々な角度から意見が出ました。スタッフ間での価値観や考え方の違いをお互いに認め合い、コミュニケーションをしっかりと取らないとご利用者の気持ちに寄り添った支援ができないことを再確認し、自分自身の支援に関する考え方を見つめ直す良い機会となりました。

通所事業 職員研修会

すみれの里 支援員 大藪 亜由子

平成 30 年 9 月 8 日（土）にボノビル 4F 天空にて、「通所事業所職員研修会」を開催しました。講師として貝塚ケアサービス研究所所長の貝塚誠一郎先生にお越し頂き、「福祉マナーおよびリスク管理研修～利用者・家族の支援や安心のための～」というテーマで勉強をさせて頂きました。



研修の中で印象に残っているのは「支援員の役割や立場」についてです。支援員の役割はご利用者の食事、トイレ介助などの日常生活支援や仕事のサポートだけではない。もっとも重要なのは、これからの生活にむけての自立支援（生きて行く力）をサポートし、自身で課題を解決していくことができる技術や能力を身に付けて頂くこと（エンパワメント）が必要である。また、サポートを行う際に支援者は「友達、家族、指導者でない」立場である事を意識することが大事であり、この立場を忘れると支援員はご利用者に自分の価値観の押し付け、パターンナリズム＝温情主義、父権主義の状態に陥り、“〇〇してあげる”“〇〇してあげたい”といったような尊厳保持に反する言動をしてしまう。ご利用者と接することの「慣れ」から支援者としての立場を忘れ、上から目線の言葉遣いや態度に出てくる事が多く、身近な事例として、ご利用者をお呼びするにあたって苗字ではなく、下の名前と呼んだり、「さん」呼びから「くん・ちゃん」や「あだ名」呼んだりしてしまうことがある。福祉・介護従事者が、特に忘れてはいけない事として「権利擁護」の視点を挙げられ、ご利用者、ご家族の思いを聴き取り、公的扶助や福祉サービス利用等の支援を行えているかを、再度確認する必要があると仰っておられました。

また、ヒヤリ・ハットの基本についてもお説明頂き、職員 1 人 1 人が事故やトラブルを無くす為の感受性（“気づき” “気づく” こと）を強化していくことによって、改善策が生まれ、「ヒヤリ」や「ハット」したことの裏に隠れた重大な事故を未然に防ぐことに繋がる。その積み重ねでご利用者が安心して過ごせ、ご家族も安心して利用できる事業所になっていくことができる。また職員の気づき＝感受性を保つことにより、支援内容の向上につながっていくのではないかと考えさせられました。



研修を通して、支援員は「友達、家族、指導者でない」立場でご利用者の近くに居て、その人生に大きな影響を及ぼす存在である事を再認識し、忘れてはいけないと考えさせられる内容でした。

私自身、ご利用者の呼びかけを、苗字でなく名前で行っている時もあり、その事が自己決定権の侵害（パターンナリズム）にも繋がりがかねないと聞き驚きました。研修後、苗字での呼びかけを心がけていましたが、呼びかえる事が度々あり、慣れというもの恐ろしいものであると改めて感じ、「話し方」や「態度」を再度意識しなおすことができました。

アート活動「アトリエ それいゆ」便り

絵画サークル・アトリエそれいゆ
岡橋 三起子

芸術の秋がやってきました。今年は「文化の力で奈良を元気に！」をテーマに「奈良県大芸術祭」「奈良県障害者大芸術祭」が一体開催され、アトリエそれいゆの皆さんの活動も一層力が入っています。秋までの活動内容と、これからの展示のお知らせをさせていただきます。

■ idea の島々～vol.5～ 作品展示（主催：社会福祉法人在友会）

2018年7月2日（月）から7月14日（土）まで、アピタ西大和店にて「idea 島々」が開催され、アトリエそれいゆから8名の方が参加されました。奈良県内・県外の5施設が参加し、個性豊かな作品が勢ぞろいしました。今回の7月6日開催予定の作者交流会は悪天候により中止され、とても残念でしたが、会期中多くの方に足をお運びいただくことができました。



■ 奈良県障害者大芸術祭（主催：奈良県障害者大芸術祭実行委員会・奈良県大芸術祭実行委員会・奈良県）

アトリエそれいゆから「ビッグ幡 in 東大寺」「プライベート美術館」「障害×アート展」に参加させていただきます。



＜ビッグ幡 in 東大寺＞

〔展示会場〕東大寺大仏殿前

〔展示期間〕2018年11月29日（木）～12月6日（木）

本展に先立って、10月2日（火）～10月8日（月・祝）に奈良県立図書情報館にて「障害×アート プレ展示」として、昨年、東大寺に掲揚された幡と今年の応募作品原画が展示されました。幡を間近に見て、改めてその大きさにビックリ！

＜プライベート美術館＞

〔展示会場〕近鉄奈良駅周辺店舗ほか県内各地

〔展示期間〕2018年10月17日（水）～10月31日（水）

ショップのオーナーさんとお見合い展示が、奈良北部会場（8月22日～24日）と中部会場（9月5日～6日）で開催されました。お見合いが成立した作品は、選んでくださったショップ等で会期中展示されます。障害のある人の作品を通して、深まる秋・奈良の町をじっくり楽しんでいただければ幸いです。



＜障害×アート展 障害のあるアーティストの魅力発信 「触って楽しむ作品展」＞

アトリエそれいゆの山口裕樹さんの作品が「障害×アート展」の企画「触って楽しむ作品展」に出展されます。この展示は「見える人・見えない人」共に、多くの方に楽しんでいただくことが目的の作品展です。通常、絵画作品は「観て楽しむ」ものがほとんどです。もし、作品に触れて楽しむことができたなら？という発想を元に、内職の廃材や毛糸・ワッシャー等を使った作品が選出され、全盲の美術家・光島貴之氏の作品と同時に展示されます。

〔会期〕2018年11月29日（木）～12月6日（木）※12月3日（月）は休館
9：00～18：00

〔会場〕奈良県文化会館 2F 展示室

■ 西谷光世さん・二科展デザイン部 入選（主催：二科展）

アトリエそれいゆの西谷光世さんの作品「それぞれの道」が、「第 103 回二科展デザイン部」に 2 度目の入選を果たしました。歴史と伝統のある二科展で障害のある人の作品が選ばれたことを、とても誇らしく思います。この公募展では、プロのデザイナーたちが切磋琢磨し、技術を磨き、その時代にマッチした新しい表現を追求しています。元々、西谷さんは二科会関西支部主催の「全国ポストカードデザイン大賞」で入選され、毎年表彰式に出席されていました。審査員の先生と顔見知りになり、「二科展に応募してみないか」と声をかけていただいたご縁で「二科展デザイン部」に応募させていただいています。まさか連続で入選されるとは思いもよらず、嬉しい知らせに皆、ただただ驚いています。応援して下さい皆さん、本当にありがとうございます！



西谷光世 作品展

my favorite animals...

2018.12.7 (金) ~ 12.11 (火)

12:00 ~ 19:00 (最終日 17:00 まで)

生を物大好き！エコ大好き！
環境への愛に溢れた、心優しい作品たち...

GALERIE CINQ
ギャラリー・サンク

■ my favorite animals...西谷光世 作品展（主催：アトリエそれいゆ）

2017 年・2018 年の二科展デザイン部入選を記念して、アトリエそれいゆの西谷光世さんの作品展を開催することになりました。昨年夏に開いた「CUTE & HUMOUR」の成功により、ギャラリーのオーナーさんが「個展を開いてみないか」と声をかけてくださり、長年の夢であった個展の開催を実現させる運びとなりました。西谷さんは生き物やエコ活動が大好きで、古新聞を使って「生き物」をテーマに制作されています。日々生み出される作品は、独特の色彩や新聞紙が織りなす微妙な陰影がとても印象的です。この作品展を通して、観に来てくださった方々と、ほっこりとした優しい時間を共有できればと思います。

【会期】2018 年 12 月 7 日（金）～12 月 11 日（火）

12:00～19:00（最終日・17:00 まで）

【会場】ギャラリー・サンク 奈良市西寺林町 28-6

■ 楽曲「希望美術館」You Tube 作品動画掲載

一般財団法人たんぽぽの家のご紹介により、アトリエそれいゆの皆さんが毎年参加させていただいている「プライベート美術館」を元に、音楽家の尾城九龍・裕子ご夫妻がインスピレーションを得て作曲・編曲した楽曲「希望美術館」が、この度 You Tube にて無料配信されることになりました。今回、楽曲を提供して下さった尾城九龍氏の代表曲として「恋はスリル、ショック、サスペンス」「I can't stop my love for you」（共に名探偵コナンのオープニング曲）、「青い青いこの地球に」（名探偵コナン・エンディング曲）があります。また、裕子氏は尾城氏と共に naam というユニットを結成し、音楽と演劇を融合した舞台に女優として出演され、今回の「希望美術館」メロディーの作曲を担当されています。

アトリエそれいゆの皆さんの作品も動画が掲載されることになり、以和貴会の関係者は元より、多くの方と喜びを共にすることができました。

是非一度、聴いてみてください！



高嶋和江さん動画掲載作品

〈動画について〉YouTube「希望美術館」にて検索して下さい。

〔掲載されている方〕

山口裕樹さん、西谷光世さん、高嶋和江さん、内田千恵さん、植田隆介さん、小山加尉さん、唯吉茜さん

また、アトリエそれいゆ所属の方以外にも、ゆらくの里ご利用者 松井佐代子さん、久世康司さん、松井由雄さん分も掲載

アート活動を通して、様々な体験をさせていただき、本当にありがとうございます。アートを媒体にして、一つでも多く幸せな記憶に残るような経験を分かち合うことができればと思います。

平成31年度内定式

管理部 採用担当 西原 功

平成31年4月1日に新しく入職される予定の方4名にお集まりいただき、法人として初めてとなる「内定式」を開催しました。理事長の挨拶に始まり、内定証書の授与や自己紹介、各事業責任者からの期待を込めたメッセージ披露などを行いました。内定式終了後には、日本料理「卯之庵」にて若手職員も参加した懇親会を開催。内定者・職員が互いに緊張しながらも、美味しい料理を頂きながら親交を深めました。



★就職イベント情報★

一人でも多く良い方と出会うため、当法人では今後も採用活動を継続していきます。
法人の就職説明&見学会の開催や、合同説明会への参加を行っております。
興味のある方は是非、ご参加下さい。

■法人就職説明&見学会

10月30日(火) 13時～16時30分

11月14日(水) 13時～16時30分

11月29日(木) 13時～16時30分

会場：ポノビル 4F

(奈良県香芝市磯壁 1-1057-3)

★参加を希望される方は、下記の方法にて

お申込み下さい。

・電話 (0745-77-8788)

・マイナビ 2019 (新卒のみ)



■インターンシップ

平成32年度卒の学生を対象としたインターンシップを実施します。興味がある方は、「マイナビ 2020」にてご確認ください。



社会福祉法人 以和貴会

就職説明 & 見学会

★ 私たちの職場には、ご利用者や職員のたくさんの“えがお”があります。★
★ 今回は、そんな私たちの“えがお”溢れる仕事を多くの方に知って頂くと同時に障がいについての理解を深めて頂くことが出来る内容となっています。★

★ 福祉に興味のある方なら経験・資格問わず、どなたでも大歓迎!! ★
★ プランクがある方でも歓迎します。お気軽にご参加下さい。★

下記の開催日より、ご希望の日を選んでお申込み下さい。

2018.10/30 (火) 13:00-16:30

2018.11/14 (水) 13:00-16:30

2018.11/29 (木) 13:00-16:30

会場

ポノビル 4F 天空 (近鉄下田駅より徒歩10分)
奈良県香芝市磯壁1-1057-3

定員

8名/日

対象

新卒・既卒・中途

《申込方法》
参加を希望される方は、
電話・申込フォーム・マイナビ2019の
いずれかで申込み下さい。

①申込フォーム

②マイナビ2019 →
 (新卒のみ)

社会福祉法人 以和貴会

Tel. 0745-77-8788

〒639-0261 奈良県香芝市尼寺616番地
<http://www.yuraku.or.jp/>

我楽 さぽーと班 一泊旅行

9月20～21日

今年は、名古屋方面へ一泊旅行に行きました。あいにくの雨の中での出発となりましたが、参加されたご利用者は皆、楽しい旅行の始まりに車内は笑顔で溢れていました。

1日目は名古屋市立博物館へ行き、大きな恐竜の骨のはく製や、天井から降りてくる水や巨大なオルゴールに、皆さん興味深々な表情でご覧になられていました。西尾市にある宿泊先のグリーンホテル三ヶ根に到着してからは、露天風呂に浸かって日頃の疲れを取ってゆっくりと過ごしておられました。入浴後の夕食は宴会場で会席料理を心ゆくまで堪能し、食後にお土産コーナーでご当地のアイスクリームを召し上がられる方もおられました。

2日目は、名古屋港水族館へ。到着した時に丁度良いタイミングでイルカショーが行われていたので、すぐに見に行きました。輪くぐりや高く吊るされたボールにジャンプして触れたり等、自然に拍手が出たり感動しました。帰りにお土産コーナーにて、色々な商品を購入し、帰宅の途に着きました。

この二日間で普段とはまた違うご利用者の表情が見ることができ、とても良い機会となりました。

来年もご利用者の皆さんが思いっきり楽しむことが出来る旅行を企画出来るよう、頑張ります。



◆イベント告知◆

法人よさこいチーム「以和貴舞踏会」が、広陵フェス～秋の大収穫祭～に出演します。

是非、ご来場いただき、日頃の成果をご覧ください。お待ちしております！

広陵フェス～秋の大収穫祭～

日時：平成30年11月10日(土) 13時8分頃～、13時50分頃～の2回出演

会場：広陵町竹取公園みんなの広場

出演：以和貴舞踏会(ご利用者・職員・ゆらくの里家族会) 21名(※予定)

新入職員紹介



なかい こうじ
中井 孝治 (8月6日入職)
ゆらくの里 パート

8月からゆらくの里で働かせて頂いております。
全くの未経験からのスタートですが、少しでも利用者様の力になれるよう頑張りたいと思っております。

ご利用者のために
精いっぱい頑張ります
どうぞよろしくお願いします

ゆらくの里 温冷配膳車導入（清水基金 社会福祉法人助成事業）



社会福祉法人清水基金より助成頂き、ゆらくの里厨房に「温冷配膳車」を導入致しました。以前は、温かいメニューも冷たいメニューも、提供までの間に“ぬるい”状態での提供となっておりました。しかし、温冷配膳車の導入により、ご利用者へ温かいものは温かく、冷たいものは冷たい状態での提供が可能となり、今まで系統的に諦めていたメニューの提供も可能となりました。それ以外にも、温度を保つことが出来るので食中毒など衛生面でのリスクも減少、また、時間短縮・作業の効率化などにより厨房スタッフの負担軽減にもつながることが期待できます。

今後も、美味しく、安心して召し上がっていただける食事の提供を行えるよう、厨房一同、邁進してまいります。



補助金事業名・・・ 温冷配膳車導入（厨房スペースの拡大工事を含む）
事業総額・・・・・・ 5,646,240 円（申請当初）
補助金額・・・・・・ 3,800,000 円

※本誌 2～3p の事業紹介にて実際の使用した様子等を紹介しています。

《ありがとうございました》

多くの方よりご寄附いただきありがとうございました。皆様方からの寄付を施設整備等、有効に活用させていただき、ご利用者のために使用させていただきます。

《個人》

飯原隆美、増尾明広、川本正矩、津田貞男、戌亥幸秀、泉中美鈴、中筋廣次、西風美智子
弓場鉄男、匿名希望1名

《業者ほか》

香芝テック、（株）タクサン、（株）田原建設、山口ガス商会

（順不同・敬称略）

《賛助会員募集》

引き続き賛助会員を募集いたします。同封の振込用紙にて会費のお振込を是非お願い申し上げます。寄付金控除を受けるための領収証をご希望の方は「通信欄」にてご連絡ください。

《編集後記》

今年は地震や台風などにより、各地で大きな被害が出ました。当法人でも、台風により一部事業所で破損が出ましたが、幸いにも人的な被害はありませんでした。今回の自然災害の多発により、日頃からの準備や対策がいかに重要かを、改めて考えなくてはいけないと感じました。被災された皆様が一日も早く復興されることを心よりお祈り申し上げます。

発行： 社会福祉法人 以和貴会
住所： 〒639-0261
奈良県香芝市尼寺6 1 6 番地
編集責任者：理事長 下村 卓司
Mail： office@yuraku.or.jp
発行月： 平成30年10月